



岩手県作業療法士会ニュース

不来方

No.36

2025年
9月30日発行



目次

contents

巻頭言「2025年～2027年度 岩手県作業療法士会 中期計画」	2
令和7年度岩手県作業療法士会総会及び総会時研修・新人会員歓迎会報告	3
3県士会（県協会）間アライアンス IKOT協議会について	4
【地域局】久慈支部主催 医療・介護職合同研修会報告	5
【地域局】盛岡支部会議・研修会報告	6～7
【学会長挨拶】第37回岩手県作業療法学会開催のご案内	8
不来方の徒然ならぬ雑記帳～車椅子仕様車、買いました（その1）	9
2025年度 期待の新人	10
*釜石のぞみ病院 高橋 蓮さん *美山病院 小野寺 紗衣さん	
【広報局】お知らせ	11
こんにちは作業療法（奥州病院／奥州市）	12

巻頭言

2025年～2027年度

岩手県作業療法士会 中期計画



一般社団法人岩手県作業療法士会会長

東八幡平病院

藤原 瀬津雄



会員の皆様におかれましては日頃より県士会活動にご尽力とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、今年度の総会や各支部会議でもお伝えしております「2025年～2027年度 岩手県作業療法士会 中期規計画」ですが、本紙面をお借りし会員の皆様に周知方々、お知らせをさせていただきます。

まずは方向性を持った中長期計画を検討するにあたり、県士会定款にある県士会目的から県士会活動の理念と方針を下記のように定めさせていただきました。

【理 念】 作業療法を通して県民の保険・医療・福祉に貢献する

1. 会員の学術・臨床技能の研鑽を図る

【基本方針】 2. 医療職として正しい行動がとれるよう研鑽を図る

3. 県内作業療法の普及と発展を進めていく

この理念・基本方針を基に、協会活動や社会的背景を勘案し、「2025年～2027年度岩手県作業療法士会中期計画」を定めました。活動方針として①会員キャリアアップの推進、②士会活動参画の促進③作業療法の普及展開、④士会運営基盤の整備、の4つの柱を掲げ、取り組む事としております。

「会員キャリアアップの推進」におきましては協会の新規制度となる「生涯学習制度」の周知と登録作業療法士取得に向けた取組みを最重要課題としております。今後機会があるごとに会員の皆様に周知、取組みの推進を図っていきますのでご協力をよろしくお願いいたします。

「士会活動参画の促進」については各世代の会員との情報交換を基に参加しやすい士会活動を目指すと同時に会員個人単位のみならず会員が所属する職場との連携を重点的に図っていく予定です。

「作業療法の普及展開」については社会からの要請に答えられるよう、様々な領域への会員参画を進めるための基盤を整備していく予定です。

「運営基盤整備」に関しては持続可能な士会運営を図るために事業管理やそれを支える事務局体制を重点体に取り組む事としております。

詳しくは今後も各支部会議にて資料配布の上説明をまいりますので、会員の皆様におかれましては積極的に情報を収集して頂けますようお願いすると共に、各種情報交換会等にて皆様からのご意見を頂けますようよろしくお願いいたします。

終わりに本中期計画のスローガンを「我が事！士会活動」としております。岩手県作業療法士会は会員の皆様が作業療法士として活躍し続けられるよう取り組んでまいりますので、会員の皆様もぜひ我が事として士会活動に参画・ご協力を頂ければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

- 令和7年度 一般社団法人岩手県作業療法士会 - 総会及び総会時研修・新人会員歓迎会報告

広報局 情報処理部 川原 学・佐藤 立

令和7年6月7日に岩手教育会館にて総会が開催されました。

2025年度より生涯学修制度が開始

こちらは講師の鈴木康也氏よりお話がありました。生涯学修制度の基盤となる「登録作業療法士制度」が導入され、国家資格取得後は前期・後期あわせて5年間の研修を通じて、まずは標準的な作業療法を実践する力を身につけることが求められます。その後は認定作業療法士、専門作業療法士を目指すことで継続的な学びを促進し作業療法士一人ひとりが描くキャリア形成を支援していく仕組みとなっています。現在、作業療法士が様々な領域での活躍を求められており、同時に作業療法士としての専門性と質を維持する必要性が高まっています。また、働き方やライフスタイルも多様化している状況であり、この制度は教育と学修の連続性を重視した仕組みであると感じました。

総会での活動報告と透明性向上の取り組み

総会では、県士会理事を含む各局の役割の紹介や昨年度予算報告および今年度の予算案の提示が行われました。これまでは県士会の役員を含め、各局の具体的な役割が分かりづらく、県士会の活動内容が見えにくかったこともあり、入会の意義や年会費を払うことへの疑問の声がありました。特に新人の療法士にとっては、疑問が大きかったのではないかと思います。今回の総会では、各局がどのような取り組みを行っているか、その活動にどれだけの費用がかかっているのか等を明確に伝えようとする姿勢がみられ、参加者への理解を深める努力が感じられました。今後は、より多くの会員の参加を促すことが期待されます。

新人会員歓迎会での交流

総会後に行われた新人会員歓迎会には47名の参加がありました。自己紹介や施設紹介から始まり、フレッシュな新人とベテランが交わる中で、忌憚のない意見交換が行われ、親睦を深める良い機会になったと思います。数年前はコロナウイルスの流行により、対面での交流が難しく、「いつになれば再開できるのか?」「この先難しいのでは?」といった不安の声が多く聞かれておりました。しかし、現在は5類感染症に移行し、自由な往来や会話の制限がなくなりました。新人療法士はベテラン療法士から日々の業務や経験談を聞くことができ、逆にベテランは「若い頃はこんなことを考えていたなあ…」と懐古する機会になったと思います。



3県士会(県協会)間アライアンス IKOT協議会について

一般社団法人岩手県作業療法士会会長 藤原 瀬津雄



【IKOT協議会の目的と設置】

3県の作業療法士会(協会)間で、会員同士の交流や情報交換、学会・研修会の相互参加を行うことで、「各士会の地域貢献の推進」「会員の臨床力・研究能力の向上」「士会の組織率の向上」を図ることを目的とし、令和6年度から活動を始めています。

【IKOT協議会活動】

主な活動として各士会理事、役員による『定例会』を開催しています。定例会テーマとして「会員の臨床力・研究力向上」「各士会の課題・独自の取組み」「士会間の研修会相互乗り入れ」が話し合われました。特に協議が進める「生涯学習制度」移行に伴い、会員の研修機会増加を目的とした現行制度下での研修(現職者共通研修、選択研修)の分担や相互乗り入れが検討されています。

また『県学会の相互訪問』を行い、各県士会会長が岩手・沖縄・鹿児島各学会を相互訪問し情報交換をしています。さらに鹿児島・沖縄学会ではオンラインによる3県士会員の参加も行われました。今年度の岩手県学会も鹿児島・沖縄の会員参加を図れるよう準備をしております。

活動概要は『IKOT通信』を発刊し、各県会員への周知を図っています(協議会ロゴも作成しました)。今年度は沖縄県士会で作成したVol.3が発刊されました。

『研修会の試行的相互乗り入れ』では、昨年度は岩手2研修、鹿児島4研修、沖縄5研修をオープンにし、オンライン研修で相互乗り入れとしました。

【おわりに】

他県士会の具体的な取組みを知ることができる本協議会は、会長のみならず理事や部員が士会運営の方向性やその実務方法等について視野を広げることができる貴重な機会となります。会員にとっては研修機会の増加や様々なテーマの研修の提供などメリットも大きく、効果的・効率的な士会運営の在り方について複数の県士会で共に考え対応しあえる本協議会の意義は貴重と考えております。会員の皆様もぜひ鹿児島・沖縄の研修会に参加、または旅行がてら南国の学会に参加してみたいはいかがでしょうか。きっと新たな視点や発見が見つけれれると思います。



地域局

久慈支部主催
医療・介護職合同研修会報告

～みんならぼカードで人生会議を楽しむ～を終えて

地域局長 久慈支部研修担当 **小笠原 康浩**
(介護老人保健施設ユートピア白滝／久慈)

今年度、6月1日に久慈支部主催で、久慈市文化会館アンバーホールを会場とし、地域の作業療法士、理学療法士、介護支援専門員、介護福祉士等、様々な職種が集まり(計23名)、医療・介護職合同研修会として、みんならぼカード研修会を開催いたしました。

昨年度は両磐支部で同様の研修会を開催しましたが、その際に、講師である一般社団法人みんなの健康らぼ、杉山賢明先生より「次は沿岸で研修会を開催したい」というオファーが久慈支部にあり、今回実現したという背景があります。午前中は人生会議についてのご講演と、みんならぼカードゲームを用いてグループごとに人生会議を体験しました。初対面同士でありましたが、ゲーム感覚での人生会議は大変盛り上がり、自然と会話が増え、参加者との共感を得ることができました。午後からは人生会議の意義について、お互いの意見を交換しました。特に、人生会議を実践するにあたって難しいと感じることや、カードをどのように日々の臨床に活かし、人生会議に繋げていくか等、ディスカッションを通じて意見交換を行いました。ある施設では、カードに書かれてある希望を一覧表にし、それをご本人・ご家族に提示して人生会議を行い、施設でのターミナルケアに繋げた事例も紹介されました。参加者からは「人生会議は死をイメージせざるを得ないため、自分にも他人にも勧めにくい印象があったが、カードを使用することで内面との向き合い方や支援者にも具体的に伝えやすい」「今後の臨床や自身の住む地域、家族にも活用していきたい」等、前向きな感想が聞かれました。

次年度は八幡平市で開催予定となっております。ぜひ、皆様もみんならぼカード体験をしてみてください。



Vol.13

KUZI SHIBU
 NEWSLETTER 久慈支部広報

● みんなで楽しく人生会議 ～みんならぼカード体験会～開催 ●

令和7年6月1日(日) 10:00～16:00 岩手県士会久慈支部主催のみんならぼカード研修会が久慈市文化会館アンバーホールにて開催された。日頃から医療・介護職・地域住民への普及活動を積極的に行われている第一人者でもある、杉山賢明先生をお招きし、みんならぼカードを用いた人生会議について講演、体験会が実施された。

～体験会の様子～

～出席者の感想～

これまでは人生会議に関して死をイメージしてしまうことで、正直自分も他人に対しても進めにくい印象をもっていました。そうではなく、カードを使用することであまり意識していなかった自分が幸せになれることや内面との向き合い方、気持ちを表現することで自分の気づきを得られるツールであることを学びました。さらに、それを支援者にも具体的に伝えることがしやすく、ケアを受けたり、お願いする側とのコミュニケーションツールとして簡単に構えないで使えてよかったと思います。これから、利用者様との関わりの中にも、人生会議やライブビューを盛り込み、その方の生活を支えていけるようにしていきたいと思っています。

地域局

盛岡支部会議・研修会報告

盛岡支部長 **福島 北斗**
(盛岡つなぎ温泉病院／盛岡市)



さる2025年7月26日土曜日の13時より、盛岡市立総合プール研修室において盛岡支部会議及び研修会を開催いたしました。前半は学術教育局による研修会、後半はグループワークを行いました。

前半の新生涯学習制度についての講義は、スケジュールの都合、学術教育局の鈴木さんに無理を言って膨大な量の情報を短時間にまとめていただきましたが、皆様の吸収も良く、質疑が湧いておりました。まずは一歩、登録作業療法士から。

後半は藤原会長から話題提供をいただき、情報の受け取りや教育体制についてグループワークを行いました。領域ごとのグループが功を奏したことと、各グループに配置したファシリテーターの手腕も発揮され、20分の時間が短く感じるほどに盛り上がりました。

連絡体制については、盛岡支部におきましても以前から問題視はしていたものの、施設数や会員数が多く煩雑さが予想されたこともあり、改めて対策をとらないままでおりました。メーリングリストの作成はしていましたが、機能は宛先へのメール送信のみで、各会員への到達確認はしていませんでした。そんな現状が支部会議の準備会においてすっかり露呈することとなりました。そこから多方面にご協力いただき、新たなメーリングリストの作成に至り、今回の案内はそのリストを使うことができました。

こうして当日を迎えるまで準備に準備を重ね、皆様のおかげをもちまして、無事に支部会議・研修会は開催されました。支部内から29施設35名に参加いただき、5名から不参加の連絡をいただきました。また、支部外からも1名参加いただきました。研修会、グループワークとも大いに盛り上がり、終了後も時間いっぱい情報交換する方々で会場が閉められないほどでした。今回は結果的には“広報局の方にいいところを見せられた”のではないのでしょうか。

終えてみて出てきた反省点を活かしつつ、みんなで支部を運営していきたいと思います。



地域局

盛岡支部会議・研修会に参加しての感想

広報局 情報処理部

高橋太樹・飛塚功太

新制度の概要と課題

2025年度より、新たな生涯学修制度が開始されました。今回の盛岡支部会議・研修会では、主に旧制度から新制度への読み替え要件について説明が行われました。特に、「登録OT」の人員確保（2030年度までに3万人の登録を目標）が近々の課題として示され、各職場での周知の重要性が強調されました。

今後、作業療法士の供給過多が予想される中で、質の高い作業療法を提供できる人材の存在を示し、その必要性を社会に訴えていくことが不可欠であると改めて認識しました。

情報交換会から生まれた前向きな提案

情報交換会では、以下のような意見が活発に交わされました。

- ・ 盛岡支部を細分化し、顔の見える関係を少しずつ築いていく
- ・ 施設間での情報共有を可能にする仕組みを構築する
- ・ 各施設の新人教育の取り組みを共有する

これらは、盛岡支部が抱える「多数の施設・会員間の交流促進」という課題に対し、前向きかつ具体的な提案であり、県士会のスローガン「我が事！士会活動」を体現するものでした。

交流が生んだ信頼と期待

参加者からは、「顔を合わせたことで信頼感が生まれた」「近隣施設でも知らないことが多く、参加して良かった」といった感想が寄せられました。今回の支部会議は大成功であり、今後の盛岡支部のさらなる活動にも大いに期待が高まります。



【学会長挨拶】第37回 岩手県作業療法学会開催のご案内

「生活と医療の未来」

～自動化する社会と作業療法を考える～

第37回岩手県作業療法学会 学会長 **芳賀 毅実**
 (社会福祉法人 恩賜財団済生会 北上済生会病院／北上市)



第37回岩手県作業療法学会学会長を拝命することになりました。第37回岩手県作業療法学会に関してですが、未来の医療の形、そして作業療法のあり方を考えるきっかけになれば良いと考え、医療MaaS (Medical Mobility as a Service) とは、移動手段と医療サービスを連携させ、医療へのアクセスを向上させる取り組みです。具体的には、オンライン診療や健康相談を、移動可能な車両やICT技術を活用して提供することで、特に高齢者や交通弱者の医療アクセスを改善することを目的としています。今回、この医療MaaSについて株式会社MONET様のご協力のもと、一般公開講座として特別講演をしていただきます。

岩手県のような広大で山間部が多い地域において、地域医療というのはしばしば話題に上がることがあっても、実際問題としてどのような形で行われているのか具体的に想像できる方は限られるかと思います。導入事例を含め、具体的に医療MaaSが医療過疎地における診察医療や予防医学等の分野で、未来の医療の形やリハビリテーションの可能性を提示していただく良い機会になると考えます。

シンポジウムは『クライアントが語る。リハビリテーションを受けての本音』と題し、患者様にご協力いただき、座談会のような形で病気を患った苦労や作業療法(リハビリテーション)について率直なご意見を聞かせていただきたいと思います。おそらく今までの学会において前例がないシンポジウムとなるかと思われます。我々の日々の取り組みが本当に患者様に正直に向き合っていたのかなど、今一度認識する場にできればと考えます。ご協力いただく患者様は3名を予定しておりますが、学会という場は皆様不慣れかと思われます。ぜひ聴講していただく際には温かい雰囲気づくりのご協力をよろしくお願いします。

一般演題発表に関しては、想定を上回る24演題のエントリーをいただきました。発表者の方々、座長を快諾していただいた先生方、査読に協力していただく先生方、本当にご協力ありがとうございます。ぜひ関連な意見交流の場となればと思います。

日程に関してですが、令和7年10月26日(日)となります。会場は花巻市定住交流センター なはんプラザとなりますが、今回、対面とZoomを使用したハイブリッド形式での学会開催とさせていただきます。Zoomに関してはメイン会場を固定カメラにて配信する形となります。一般演題発表に関して、第2会場は配信できませんので、あらかじめご了承ください。藤原県士会長のご意向もあり、遠方にお住まいの方や家事・育児で会場に足を運ぶことが難しい方にも、ぜひご参加いただければと思います。もちろん現地で県士会員の皆様とお会いできるのを心より楽しみにしております。



不來方の～ 徒然ならぬ～ 雑記帳

広報局 機関誌企画部
藤田 淳

車椅子仕様車、買いました(その1)

我が家は、80代後半、いずれも要介護2の父母と私の3人家族です。

昨年ごろからふたりとも足腰が弱くなり、向こう10年の介護を考えて「車いす仕様車」を購入しました。

車いすをハッチバックからスロープで載せて、車いすのまま本人を運ぶタイプです。

購入に際して、初めて知ったことがいろいろありました。

作業療法士として既にご存じの方も多いかとは思いますが、共有できればと思い、簡単に一部を記事にすることにしました。

① 消費税免税

身体に障がいの有する方の状態に応じた補助手段が講じられている自動車は、その車両に係る消費税が非課税になります。ですが、車についている装置によっては非課税にならない場合もあります。また、中古車の場合も対象になります。

私の購入した車のようなスロープ付きやリフト付きのものは非課税です。座席が車外に出てくるタイプ(リフトアップシート車)も非課税です。ですが、助手席が回転するタイプ(助手席回転シート車)だと、車いす収納装置も付かないと非課税にはならないようです。(ここでは障がい者が自分で運転する車については割愛します)

② 自動車税減免

自治体により異なるようですが、岩手県の場合は、自分で運転する場合か、生計を一にする者が運転する場合(いずれも車の所有者は障がい者本人でなければならないようです)で、通学、通所、通院、通勤などの目的の場合に免税されます。

回数要件が令和5年4月から緩和されています。

以前は「週1回以上又は月4回以上」だったものが、「継続して月1回以上」となっています。以前はかなりハードルが高かったので、よいことですね。

作業療法士として勉強不足を痛感させられましたが、良い勉強になりました。ほかにも福祉車両の免税や補助施策があります。

皆さんも機会がありましたら調べてみてください。



※ 尚、諸事情により車種は伏せさせていただきます。

New Face

2025年度入職の期待の星

令和7年から作業療法士として活躍しているフレッシュなスタッフたちをご紹介します!

釜石のぞみ病院／釜石市

01

高橋 蓮 (たかはし れん) さん

新人作業療法士として、岩手県士会広報 不來方に掲載されることを大変光栄に思います。

春から生活が変わり、学生から社会人となったことで慣れない環境・仕事での緊張や不安がたくさんあります。しかし、1人の社会人として、作業療法士としての自覚を持ち、毎日の業務に従事していきたいと考えております。

その中で私は患者様の思いに寄り添い、一人ひとりのニーズに適した作業療法を提供することを目標としています。また、患者様のこれまでのライフスタイルや性格などのその人らしさを引き出せるような作業療法士になりたいと思います。

そのためにも、1日でも早く仕事を覚え、自分にできることを精一杯実践していきます。そして、先輩方から知識・技術を学ぶ姿勢を大切にし、自己研鑽に励んで参りたいと思います。



02

社団医療法人啓愛会 美山病院／奥州市

小野寺 紗衣 (おのでら さえ) さん

働き始めて3ヶ月が経ち、業務にも少しずつ慣れてまいりました。

日々の業務を通して、評価と治療のつながりや、患者様を多角的に捉える視点の重要性を実感しております。まだ十分ではありませんが、先輩方や他職種の方々に支えていただきながら、日々学ばせていただいています。また、一人ひとりの価値観や生活歴に合わせた支援を行う作業療法において、患者様それぞれに応じた関わり方が今後の課題です。

忙しい毎日ですが、患者様から「ありがとう。またよろしくね」と声をかけていただいたときには、とても嬉しく思いました。

今後は、患者様の個別性や思いに寄り添い、さまざまな視点からその人らしさを大切にした作業療法を提供できるよう、頑張っていきたいと思います。



広報局からのお知らせ

機関誌「不来方」公開方法変更のお知らせ

日頃より岩手県作業療法士会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび当会の機関誌『不来方(こずかた)』につきまして、これまで本会ホームページの会員限定ページにて公開しておりましたが、今後はより多くの皆様にご覧いただけるよう、**一般公開**へと移行する運びとなりました。

これにより、会員の皆様から寄せられた貴重な情報や活動報告、地域での取り組みなどを、県民の皆様をはじめ、医療・介護・福祉関係者の方々にも広くお伝えすることが可能となります。

本誌の一般公開は、作業療法の魅力や有用性を広く発信し、地域社会との連携をより一層深めることを目的としております。つきましては、今後とも引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「安心でんしょばと」は今年10月31日(金)で運用終了となります。

今までご利用いただき、ありがとうございました!

今まで安心でんしょばと(メルマガ)は、新着情報や災害安否確認など配信させていただきました。今後は正会員の他、学生や一般など岩手県作業療法士会の情報を広く配信し且つ馴染みやすく簡単に登録が出来るように、公式LINEへ移管することとなりました。

現在、広報局ではホームページ、安心でんしょばと(メルマガ)、X、公式LINEを管理・運用しています。今後は安心でんしょばとを廃止し、Xや公式LINEなどのSNSを強化していきます。

岩手県作業療法士会におけるITや情報配信の変更に伴い、移行期間など会員の皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

「公式LINE」はじめました

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@222myhee

岩手県作業療法士会
公式LINE
はじめました。



うれしい情報をLINEでお届け!

最新の学会情報・イベント案内を配信中。
ぜひ友だち追加をお願いします



@222myhee



公式「X」運用中!!!

様々な情報を配信していきます。皆様のフォローをお願いいたします。



@iwate_ot



こちらのQRコードからもアクセスできます!



こんにちは

作業療法



このコーナーでは、皆さんの職場での作業療法風景やアクティビティを紹介します。

今回は奥州市にあります『奥州病院』さんです。

今回はスクラッチアートについてご紹介します。
スクラッチアートは、真っ黒なスクラッチ面に印刷された線を専用のペンで削り、カラフルな線やキラキラと輝くホログラムの線を浮かび上がらせる「削る塗り絵」です。道具や削るときに力の入れ具合によって線の太さを変えたり、面全体を削らずに模様をつけるように削ったりと、アレンジが簡単にでき、表現の幅が広がるのが魅力です。

スクラッチシートは市販されており、書店や100円ショップなどで購入できます。種類が豊富で難易度もさまざまです。一時間程度で仕上げられるものから、何日もかけてじっくり完成させるものまであります。また、竹串や専用ペンが付属しているものもあり、手軽に始められますので、内容をよく確認して選ぶとよいでしょう。

初心者でも楽しめ、集中力アップにもつながるため、幅広い年齢層で楽しめます。興味のある方は、ぜひ挑戦してみてください。



普段の業務等で忙しい中、原稿を作成・提供してくださり、本当にありがとうございます。この機関誌は会員並びに士会に関わってくださる方々に支えられて成り立っております。今後とも記事の提供にご理解ご協力を頂けるよう広報局員一同、丁寧に対応させて頂きます。

岩手県作業療法士会ニュース「不来方」 年3回発行

発行所 一般社団法人岩手県作業療法士会
発行人 藤原瀬津雄
編集人 佐々木圭秀
機関誌編集担当 藤田 淳 / 金野 慶太 / 倉成 ハルエ
和田 いつか / 菊地 香織 / 川向 悠太

デザイン・印刷 株式会社日高見

一般社団法人 岩手県作業療法士会
<http://iwate-ot.or.jp/>

